

平成 31 年 (2019 年) 3 月 18 日  
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

1 害虫名 : チャノキイロアザミウマ (*Scirtothrips dorsalis* Hood) 在来系統

2 発生作物名 : 洋ラン (デンドロビウム)

3 特殊報の内容 洋ランにおける被害の初確認

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 : 平成 30 年 11 月 2 日

(2) 発生地域 : 長門市

(3) 確認の経緯

施設栽培デンドロビウムにおいて、葉の変形、バルブの褐変などの症状が認められた。被害株から採集したアザミウマ類成幼虫を国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門に同定依頼した結果、チャノキイロアザミウマの在来系統 (yellow tea thrips: Y T 系統) と判明した。

国内では今まで、本種在来系統による洋ランの被害発生は報告されていない。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

被害葉は波打ったように変形する (図 1)。葉裏には横方向に白色筋状の傷が発生する (図 2)。傷は隆起し、褐変することもある (図 3)。バルブの表面は淡褐色～褐色となる (図 4)。

(2) 形態

成虫の体色は黄色で、閉じた前翅により背部中央が黒く筋状に見える。体長は雌が約 0.9mm、雄が約 0.8mm であり、やや小型のアザミウマである (図 5)。

(3) 生態

年間 8～10 回程度発生し、茶、果樹、野菜、花き等多くの作物で被害が報告されている。卵から羽化までの発育期間は 20℃で約 27 日、28℃で約 15 日、成虫の生存期間は 24℃で 20～30 日である。蛹化場所は寄主植物により異なるが、樹皮の隙間や地表面の落ち葉中、土壌表面等である。

6 防除対策

(1) 花き類・観葉植物のアザミウマ類に登録のある薬剤を、新芽やバルブのすき間まで十分かかるよう丁寧に散布する。なお、アザミウマ類は薬剤抵抗性が発達しやすいため、同系統の薬剤の連用を避ける。

(2) 施設開口部に防虫ネット等を展張して侵入を防止する。



図1 波打つように変形した葉



図2 葉裏の傷



図3 傷の隆起・褐変



図4 バルブの褐変



図5 チャノキイロアザミウマ雌成虫